

ハンガリー外交とフィンランド、 スウェーデンの NATO 加盟

萩野 晃

1. はじめに

長く中立、非同盟政策を維持してきた北欧のフィンランド、スウェーデンは、2022年2月24日に勃発したロシア・ウクライナ戦争を契機に北大西洋条約機構 (NATO) に加盟する意思を表明した。そして、両国は同年5月に NATO への加盟申請を行った。しかし、NATO 加盟国の中で、トルコは両国によるクルディスタン労働者党 (PKK) の亡命者の受け入れに反発して、加盟に反対した。また、ハンガリーは二カ国の NATO 加盟に関する国会での批准を意図的に遅らせてきた。

亡命クルド人をめぐる問題をかかえるトルコのみならず、何故、ハンガリーが北欧二カ国の加盟の承認手続きを遅らせたのか。パニ (Panyi Szabolcs) はトルコ、スウェーデン、ロシア、欧州連合 (EU) の4つの視点から考察している⁽¹⁾。さらに、筆者はロシア・ウクライナ戦争勃発後のハンガリーのエネルギー安全保障にも着目する。

本稿の目的は、ロシア・ウクライナ戦争勃発後のハンガリー外交、とく

(1) Szabolcs Panyi, "Favor to Russia or Turkey? Why Orbán is Still Blocking Sweden's NATO Membership," *VSQUARE*, 30.03.2023, <https://vsquare.org/favor-to-russia-or-turkey-why-orban-is-still-blocking-swedens-nato-membership/> (2023年5月26日にアクセス)

にフィンランド、スウェーデンの NATO 加盟問題への対応を論じることにある。分析に際して、2010年以降のオルバーン（Orbán Viktor）政権の対外政策との連続性に焦点をあてる。次章では、ロシア・ウクライナ戦争勃発後のハンガリー外交姿勢を概観する。第3章で、戦争勃発後の北欧二カ国の安全保障政策の転換からフィンランドの NATO 加盟実現までのハンガリーの対応を検証する。さらに、第4章では、フィンランド加盟後のハンガリーのスウェーデン加盟問題への対応および対トルコ関係を論じる。そして、最後に、ハンガリーがエネルギー安全保障の観点から NATO 拡大を遅らせた要因を考察する。

本稿のアルファベットでのハンガリー人名は、現地の表記に合わせて姓・名の順で記した。

2. ロシア・ウクライナ戦争とハンガリー

2022年2月24日、ロシアが本格的なウクライナへの軍事侵攻を開始した。戦争勃発の直後、ハンガリー政府はウクライナの領土の一体性と主権を尊重するとの見解を示した。そして、ハンガリー外相シーヤールトー（Szijjártó Péter）はブダペストでのロシア・ウクライナ首脳会談の開催を提案した⁽²⁾。しかし、ハンガリーはウクライナの支援要請に応じようとしなかった。ウクライナ大統領ゼレンスキー（Volodimir O. Zelenski）が3月25日にオルバーンに、ロシアへの経済制裁として原油、天然ガスを輸入しないこと、他国からのウクライナ向けの兵器輸送のハンガリー領内通過の許可、兵器の供与を要請した。しかし、オルバーン首相はゼレンスキーの要請を拒絶した⁽³⁾。

(2) *Magyar Hírlap, hu*, 2022. február 25, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20220225-szijjarto-peter-targyalasi-helyszinnek-ajanlotta-budapestet> (2022年2月26日にアクセス)

ハンガリーは他の NATO, EU 加盟国と比較しても、2014年のクリミア半島併合以来、ロシアへの批判を抑えていた。オルバーン政権は2000年代末からの経済危機の打開の一環として EU 域外との経済的な利益を模索し、ロシアをはじめとする旧ソ連、中国への「東方開放政策 (keleti nyitás politikája)」を展開した。ハンガリーは戦争勃発以前からパクス・ユラークの拡張 (Paks II) への投資やコロナ禍でワクチンのスプートニク V の輸入でロシアとの関係を強化していた。ハンガリーは天然ガスの85%、原油の64%をロシアから輸入していた。戦争が勃発すると、欧米諸国は激しくロシアを批判し、兵器を含めたウクライナへの支援を開始した。冷戦終結の後も非同盟政策を維持してきたフィンランド、スウェーデンまでがロシアを非難して、ウクライナへの兵器供与に踏み切った。また、ハンガリーとともに中・東欧の地域協力ヴィシエグラード・グループ (V4) を構成するポーランド、チェコ、スロヴァキアもウクライナへの兵器供与に踏み切った。とくに、コロナ禍からの経済復興基金の配分をめぐる EU 内部での対立でハンガリーと歩調を合わせてきたポーランドは、ロシアへの批判を強めてウクライナへの兵器供与に積極的だった。にもかかわらず、ハンガリーはウクライナへの兵器供与を否定し、第三国によるウクライナへの兵器輸送の領内通過を拒否した。ロシアへのエネルギー依存に加え、ウクライナ西部のザカルパッチャ州に住む15万のハンガリー系少数民族に危害がおよぶことをハンガリー政府は危惧していた。

戦争が予想外に長期化する中、EU 内部では厳しいロシアへの経済制裁が検討された。フォン・デア・ライエン (Ursula von der Leyen) 欧州委員長は2022年5月4日にロシアからの原油輸入を段階に禁止する第6次制

(3) *Magyar Hírlap*, hu, 2022. március 25, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20220325-orban-viktor-elutasította-az-ukran-elnok-koveteleseit> (2022年3月26日にアクセス)

裁案を提示した。⁽⁴⁾ハンガリー国内では、自国のエネルギー供給面からの安全保障を脅かすとEUの制裁案への不安が広がった。オルバーンはEUによるロシア産原油の禁輸は「自国経済への原爆投下だ」⁽⁵⁾と反発した。

5月31日のEU首脳会談では、第6次の対露経済制裁案が審議された。EUは年内に域内でロシア産の原油の禁輸に踏み切ることを意図していた。オルバーンは経済制裁案に反対した。加盟国の間からハンガリーへの批判の声が挙がったにもかかわらず、EUは年内にロシア産原油の輸入を90%まで削減する、ただしパイプラインは例外とすることで妥協した。オルバーンは「ハンガリーの家族たちを守った」と豪語した。さらに、5月のEU首脳会議では、ロシアのプーチン(Vladimir V. Putin)大統領と親しく、ウクライナへの軍事侵攻を支持したモスクワ総主教キリル(Patriarch Kirill) I世をEUの制裁リストに加えることも検討された。だが、ハンガリーの反対で除外された。シーヤールトーは信教の自由への侵害を理由に聖職者であるキリルへの制裁に反対した。⁽⁶⁾

2022年6月28日から30日にマドリッドで開催されたNATO首脳会談には、ロシアによるウクライナ侵攻に加え、中国の海洋進出を念頭に、加盟国のみならず、伝統的な中立や非同盟を放棄して加盟の意思を表明したスウェーデン、フィンランド、アジア太平洋地域から日本、韓国、オースト

(4) *Magyar Hírlap. hu*, 2022. május 4, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20220504-az-europai-bizottsag-az-orosz-koolajimport-fokozatos-betiltasat-javasolja> (2022年5月6日にアクセス)

(5) *Magyar Hírlap. hu*, 2022. május 6, <https://www.magyarhirlap.hu/belfold/20220505-ujraindulnak-a-miniszterelnoki-radiointerjuk> (2022年5月7日にアクセス)

(6) 5月31日のEU首脳会談でのハンガリーの対応は、拙稿「ハンガリー外交とロシア・ウクライナ戦争」『法と政治』第73巻第3号, 2022年, 111-113頁を参照。

ラリア、ニュージーランドも参加した。NATO は2010年版に代わる新たな戦略概念⁽⁷⁾を採択した。新しく採択された戦略概念では、ロシアは従来の「戦略的パートナー」でなく「最大かつ直接の脅威」と認定された。

ハンガリーは5月の EU 首脳会談の時と異なり、NATO 首脳会議で目立った動きを見せなかった。すでに、ハンガリー政府の最大の関心は、EU による対ロシア制裁が強化される中での原油、天然ガスの確保などエネルギー安全保障に移っていた。

3. フィンランド、スウェーデンの NATO 加盟とハンガリー

ロシアのウクライナへの本格的な軍事侵攻が始まると、フィンランド、スウェーデンは従来の非同盟政策を放棄し、5月には NATO への加盟申請を行った。フィンランドはロシアと 1300km を越える国境線を有しており、ロシアのウクライナ侵攻を深刻な脅威と受け止めた。実際、フィンランドには第二次世界大戦中にソ連軍に蹂躪され、カレリア地方の一部を割譲させられた歴史的な経緯があった。フィンランドは第二次世界大戦の戦後処理の結果として、ソ連と友好・協力相互援助条約を締結した。フィンランドは東欧諸国のようなソ連と同様の政治・経済体制を押し付けられる衛星国化を免れたが、対ソ関係に配慮しながらいかなる国家とも同盟を結ばない外交・安全保障政策を選択した。他方、スウェーデンは19世紀初頭のナポレオン戦争終結後の国際秩序の構築に際して中立政策に転じた。スウェーデンは二度にわたる世界大戦では中立を維持したが、冷戦期にはソ連の脅威から独自の軍事力の整備を進めながら、NATO との連携の強化にも努めていた。フィンランドとスウェーデンは同じく中立国であるオーストリアとともに、1990年代初頭の冷戦の終結とソ連の解体という国

(7) NATO の新戦略概念(英語)は、290622-strategic-concept.pdf を参照。

際環境の変化を契機として1995年にEUに加盟した。さらに、地域紛争や民族紛争が多発する冷戦後の国際社会の中で、両国は1994年にNATOとの「平和のためのパートナーシップ」に加盟し、紛争地域での平和維持活動等に積極的に参加した。近年、国内外の研究者が指摘するように、フィンランド、スウェーデンは中立とはいえなレベルまでNATOとの関係強化が進行していたのである。⁽⁸⁾

NATOにとって、フィンランド、スウェーデンの加盟はバルト海を自らの海とできる地政学的に重要な意味があった。また、NATO加盟国の多くはスウェーデンの軍事的な貢献に期待していた。しかしながら、1949年の創設当時の原加盟国に次ぐ1952年以来のNATO加盟国であるトルコのエルドアン(Recep Tayyip Erdoğan)大統領は、PKKの活動家の亡命を認めた両国への反発から加盟に反対した。トルコはロシア・ウクライナ戦争勃発前から両国の仲介を試み、2022年1月に自国でのゼレンスキーとプーチンの協議を提案していた。トルコは戦争勃発後もロシアを批判するNATO加盟国の中では独自の姿勢を取っていた。3月10日には、トルコのアンタルヤでウクライナ外相クレバ(Dmytro I. Kuleba)とロシア外相ラヴロフ(Sergey V. Lavrov)との最初の閣僚会談が開催された。⁽⁹⁾フィンランド、スウェーデンの加盟には、現在加盟する30カ国すべての批准が

(8) 近年のフィンランド、スウェーデンの安全保障政策の変化に関して、石野裕子『物語フィンランドの歴史—北欧先進国「バルト海の乙女」の800年』中央公論新社、2017年；石野裕子「フィンランド—対ロシア関係と安全保障」(広瀬佳一編『NATOを知るため71章』明石書店、2023年)、194-197頁；村上政俊『フィンランドの覚悟』扶桑社、2023年；Ryszard M. Czarny, *Sweden: From Neutrality to International Solidarity* (Cham, Switzerland: Springer, 2018)；清水謙「スウェーデン—冷戦期における西側との軍事協力から正式加盟申請へ」(広瀬佳一編、前掲書)、198-202頁。

(9) Şeref Türkmen, “Török közvretítési kísérletek az orosz-ukrán háború hadviselői között,” *Külgügyi Szemle*, 22, 2, 2023, 30-31. o., 35. o.

必要である。トルコの承認なくして両国の加盟は実現しなかった。

ハンガリーのオルバーン政権はフィンランド、スウェーデンの加盟に反対の意思こそ示さなかったが、法案審議の日程上の制約を理由に国会での承認のための審議を始めようとしなかった。2022年10月の時点で、トルコとハンガリーを除く NATO 加盟国は、フィンランド、スウェーデンの加盟の承認手続きを終えていた。

先述のように、トルコは PKK をめぐってフィンランド、スウェーデンと対立してきた。ハンガリーと両国はいかなる関係にあったのか。また、ハンガリーは両国とどのような問題をかかえていたのか。ハンガリー語は大半のヨーロッパ諸国で話されているインド・ヨーロッパ語系とは異なる文法体系のフィン・ウゴル語系に属する。フィンランド語もフィン・ウゴル語系の言語の一つである。そのため、ハンガリーは言語上の理由から伝統的にフィンランドにシンパシーを持って文化交流を進めてきた。スウェーデンとの関係に関して、ハンガリーは1999年の NATO 加盟後にスウェーデンのサーブ社の JAS-39 グリペン14機を旧ソ連製の MIG-29 戦闘機に代わる主力戦闘機としてリースした⁽¹⁰⁾。2001年にグリペンの採用を決定したのは、第一期オルバーン政権（1988～2002年）であった。その後もハンガリーはスウェーデン製の兵器を輸入して装備の近代化に努めてきた。中立、非同盟を国是するスウェーデンは、国産の兵器を中心に防衛力を整備してきた。スウェーデンにとって、生産量の増加によって国産兵器のコストを下げるうえで、中・東欧は重要な輸出先となった。

ハンガリー政府がフィンランド、スウェーデンの加盟承認を遅らせる背景として、2010年の第二期オルバーン政権の成立以降、両国がハンガリーでの民主化の後退に批判的な姿勢を取ってきたことが挙げられる。ポルト

(10) Gazdag Ferenc, *Három évtized magyar külpolitikája (1989-2018)* (Budapest: Ludovika Egyetemi Kiadó, 2021), 161. o.

ガルの欧州議会議員タヴァレス (Rui Tavares) による2012年施行のハンガリーの基本法 (憲法) の問題点に関する2013年7月の報告書が公表された後、スウェーデン政府のオルバーン政権への姿勢が変化⁽¹¹⁾した。タヴァレス報告の後、歴代の欧州議会ではドイツの2017年総選挙で社会民主党の首相候補となったシュルツ (Martin Schultz), 元ベルギー首相フェルホフシュタット (Guy Verhofstadt), オランダ選出の環境保護派サルゲンティニー (Judith Sargentini), チェコから選出された欧州委員会副委員長ヨウロヴァー (Věra Jourová) などが、イスラム圏からの難民の受け入れ, 新型コロナウイルスの感染防止策をめぐってハンガリーを批判してきた。スウェーデン選出の欧州議会議員もオルバーンの与党フィデス-ハンガリー市民連盟 (以下, フィデスと略記) と同じ欧州人民党 (EPP) に属する中道右派も含めてハンガリーに批判的だった。2020年5月には, スウェーデン, フィンランドを含めた北歐五カ国の外相がハンガリー政府の新型コロナウイルスの感染症対策法 (非常事態宣言) に対してオルバーンに直接言及する共同書簡を公表した⁽¹²⁾。シーヤールトーは五カ国の外相に抗議の書簡⁽¹³⁾を送った。

フィンランド, スウェーデンにとって, ハンガリーが自国の NATO 加盟の承認手続きを始めないことは想定外であった。だが, 先述の欧州議会での自国への批判に対して, ハンガリー政府が NATO 加盟問題で意趣返

(11) 'Swedish Paper Accuses of EU of Betraying Democracy in Hungary,' *The Budapest Beacon*, August 25, 2014, <https://budapestbeacon.com/swedish-paper-accuses-eu-of-betraying-democracy-in-hungary/> (2023年9月20日にアクセス)

(12) 村上政俊, 前掲書, 59頁。

(13) *Magyar Hirlap. hu*, 2020. május 11, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20200511-szijjarto-peter-levelet-kuldott-ot-kulugyminiszternek> (2023年9月26日にアクセス)

しをする可能性は十分にあったといえる。EU 内部でハンガリーに批判的な姿勢を取る加盟国は、フィンランド、スウェーデンを除いて NATO 加盟国であった。

さらに、オルバーン政権が NATO 拡大への承認を遅らせたのは、パニが指摘したように、2020年11月に合意がなされたコロナ禍からの復興危機基金の分配をめぐる EU 内部での対立が関係していた⁽¹⁴⁾。加盟国が復興基金から資金援助を受けるために、法の支配の遵守を EU は条件づけた。ハンガリー、ポーランドは復興基金の分配の条件に激しく反発した。両国は2021年から2027年の EU 予算を拒否する姿勢を示した。EU 理事会議長国ドイツ、ハンガリー、ポーランドが交渉を続けた結果、12月10日になんとか合意に達した⁽¹⁵⁾。ハンガリー、ポーランドは EU 予算で拒否権を発動しない代わりに、EU 司法裁判所に法の支配の適用性の審議を委ねることになった。同裁判所は2022年2月16日に加盟国の法の支配への違反について、EU 予算の執行停止を認める規制が適法であるとの判断を下した⁽¹⁶⁾。現在、ハンガリーは復興基金も含めた EU 基金の拠出金の凍結解除のため司法改革で EU に譲歩を余儀なくされている。オルバーン政権はフィンランド、スウェーデンの NATO 加盟問題を復興基金の凍結解除のための EU との交渉を有利に進めるためのカードとして利用しようとしたのである。

フィンランド首相マリン (Sanna Mirella Marin) は11月に自身のツイッ

(14) Szabolcs Panyi, “Favor to Russia or Turkey? Why Orbán is Still Blocking Sweden’s NATO Membership.”

(15) *Magyar Hírlap. hu*, 2020. december 10, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20201210-megallapotak-az-unios-koltsegvetesrol> (2020年12月11日にアクセス)

(16) 2022年2月18日付『日本貿易振興機構 (ジェトロ) ビジネス短信』(電子版), <https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/05/0aacb0417d919595.html> (2023年7月24日にアクセス)

ター（現在X）で「ハンガリーはフィンランド、スウェーデンの NATO 加盟を遅らせることで、保留された EU 基金を得ようと試みている」と述べた。オルバーンは同じく自身のツイッターで「ハンガリーはフィンランドの NATO 加盟ばかりか他のどんな問題も EU 基金とリンクさせていないし、リンクさせることもない」と反論した。⁽¹⁷⁾

11月24日にスロヴァキアのコシツェで V4 の首脳会談が開催された。会談に先立ち、ポーランド首相モラウィエツキ (Mateusz Morawiecki) はハンガリーに早期のフィンランド、スウェーデンの NATO 加盟承認を求めると述べていた。ポーランドは自国で使用しない旧ソ連製の MIG-29 のウクライナへの供与を申し出るなど、ロシアに強硬な姿勢を取っていた。ハンガリーと異なり、ポーランドは復興基金を凍結されていなかった。戦争の勃発後、V4 内部での意見の相違、とくにポーランドとハンガリーとの間で安全保障面での立場の違いが浮き彫りになった。ポーランドは18世紀後半から第一次世界大戦の終結まで100年以上にわたってロシアに支配され、第二次世界大戦中にソ連に軍事侵攻された。また、2004年の EU 加盟前、ポーランドにはロシアの飛び地であるカーリーニングラードとロシア本国との陸路での通過をめぐる問題をかかえた経緯があった。ソ連崩壊後にウクライナを緩衝地帯としてロシアと国境を接していないハンガリーはロシアを深刻な脅威と捉えていなかった。オルバーンは首脳会談で「ハンガリーはフィンランド、スウェーデンの NATO 加盟を支持し、来年の最初の国会の会期で議題として上げる」と述べた。オルバーンの発言に関⁽¹⁸⁾

(17) マリンとオルバーンのやり取りは、‘Viktor Orbán Replied to Finnish PM’s Complaint,’ *Hungary Today*, 2022. 11. 30, <https://hungarytoday.hu/viktor-orban-replies-to-finnish-pms-complaint/>を参照。（2023年10月13日にアクセス）

(18) *Magyar Hírlap. hu*, 2022. november 24, <https://www.magyarhirlap.hu/belfold/20221124-orban-viktor-a-visegradi-nyegyeknek-tovabbra-is-van-jovoje>

して、フィンランド外相ハーヴィスト (Pekka Haavisto) は「これは前向
きなメッセージである⁽¹⁹⁾」と評価した。

しかしながら、2023年に入っても、ハンガリー国会でのフィンランド、
スウェーデンの NATO 加盟の承認に関する審議は始まらなかった。2023
年2月下旬、NATO 加盟希望の二つの国がハンガリーにおける民主主義
と法の支配に関して嘘を広めていると、初めてオルバーンは述べたので
ある⁽²⁰⁾。

ハンガリーは北欧二カ国の NATO 加盟の承認を遅らせながらも、トル
コの姿勢など状況の変化に対応する準備を始めていた。シーヤールトーは
1, 2 週間のうちにハンガリーとスウェーデンの議会代表団による会合が
行われるだろうと述べた⁽²¹⁾。3月1日になって、ハンガリー国会ではフィン
ランド、スウェーデンの NATO 加盟に関する審議が始まった⁽²²⁾。

3月7日にハンガリー国会の副議長ヘンデ (Hende Csaba) を団長とす
る国会議員の代表団がストックホルムを訪問した。両国の国会議員団の協

(2022年11月25日にアクセス)

(19) 'Hungary to Ratify Finland, Sweden NATO Bids in February, Finnish Foreign Minister Says,' *Arctic Today*, 1 December 2022, <https://www.arctictoday.com/hungary-to-ratify-finland-sweden-nato-bids-in-february-finnish-foreign-minister-says/> (2023年9月11日にアクセス)

(20) 'Hungary's Fidesz Party to Back Finnish, Swedish NATO Accession,' *Radio Free Europe Radio Library*, March 01, 2023, <https://www.rferl.org/a/hungary-nato-debate-sweden-finland-orban/32294510.html> (2023年8月31日にアクセス)

(21) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. február 27, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20230227-egy-ket-heten-belul-sor-kerulhet-a-magyar-es-sved-parlament-delegaciok-kozotti-talalkozora> (2023年2月28日にアクセス)

(22) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. március 1, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20230301-a-beke-es-a-biztonsag-a-legfontosabb> (2023年3月2日にアクセス)

議では、ハンガリーのスウェーデンへの不信感は解消できなかった。代表団のストックホルム到着の前日、スウェーデンの日刊紙『アフトンプラデーット』がハンガリーを「ギャングスター」と名指しで批判したことに、ハンガリー側は反発していた。ヘンデは「スウェーデンがNATOの一員となるのを支持する」と強調する一方で、「ハンガリーでは法の支配に問題はない」「スウェーデンの政治家、政府代表、欧州議会のメンバーが、完全な嘘に基づいて、ハンガリーで法の支配に問題があると示唆しなければ望ましいのに」と皮肉を込めて述べた。⁽²³⁾

3月に入り、トルコのフィンランドに対する姿勢が軟化した。3月17日、エルドアンがアンカラを訪問したフィンランド大統領ニーニスト (Sauli Väinämö Niinistö) と会談した。NATO への加盟申請をめぐるフィンランドが「誠実で具体的な措置を取った」として、5月14日に予定されている大統領選、議会選の前に批准する意向をエルドアンは示した。⁽²⁴⁾ 他方、フィンランドはスウェーデンとの同時加盟を好ましく考えていた。だが、後述する理由から、トルコのスウェーデンの加盟承認には時間を要することが

(23) スtockホルムでの協議は、*Magyar Nemzet. hu*, 2023. március 7, <https://magyarnemzet.hu/belfold/2023/03/gengszternek-nevezte-hazankat-az-egyik-sved-napilap> (2023年3月8日にアクセス); *Magyar Hirlap. hu*, 2023. március 7, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20230307-jo-lenne-hanem-hazudnanak-magyarorszagrol-jelentette-ki-hende-csaba-stockholmban> (2023年3月8日にアクセス)

(24) 2023年3月17日付『朝日新聞』(電子版), https://digital.asahi.com/article_search/detail.html?keyword=%E3%82%B9%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%87%E3%83%B3+%E3%83%88%E3%83%AB%E3%82%B3%E5%A4%A7%E4%BD%BF%E9%A4%A8&FormRadioSelect=select_keyword&searchcategory=2&from=&to=&MN=default&inf=&sup=&page=1&idx=1&s_idx=1&kijid=A1001120230318E006-04-008&iref=pc_articletab_article&version=3194132139 (2023年10月6日にアクセス)

予想され、フィンランドは自国の加盟実現を優先させて国内のテロ対策の強化、トルコ人の活動制限の措置を取った。フィンランド議会も3月1日に自国の単独加盟を支持した。⁽²⁵⁾

トルコは対フィンランド姿勢の軟化と対照的に、スウェーデンへの態度を硬化させていた。2022年10月にスウェーデン首相に就任して早々にクリステーション(Ulf Hjalmar Ed Kristersson)がトルコを訪問して、前政権下で決定されたとおり、トルコにテロ組織の活動阻止などの義務を果たすとして、エルドアンに加盟への理解を求めている。だが、1月21日にスウェーデンの極右政治家がストックホルムのトルコ大使館前での抗議行動でコーランを燃やしたことにエルドアンは激しく反発して、27日からのスウェーデン訪問を中止した。⁽²⁶⁾

オルバーンやシーヤールトーには、最後まで北欧二カ国のNATO加盟を阻む意図などなかった。むしろ、ハンガリー政府は両国のNATO加盟の承認で意図的にトルコに歩調を合わせていたと考えられる。先述のハンガリー国会代表団のスウェーデン訪問を除き、ハンガリーとフィンランド、スウェーデンは高官レベルでの話し合いを行わなかった。3月27日にハンガリー国会が賛成182、反対6で、フィンランドのNATO加盟を承認した。⁽²⁷⁾ 3月30日のトルコ議会による批准を経て、フィンランドは4月4日

(25) *Magyar Hirlap. hu*, 2023. március 1, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20230301-a-finn-parlament-elsopro-tobbseggel-finnorszag-nato-tagsagamellett-dontott> (2023年3月2日にアクセス)

(26) 2023年1月25日付『朝日新聞』(電子版), https://digital.asahi.com/article_search/detail.html?keyword=%E3%82%B9%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%87%E3%83%B3+%E3%83%88%E3%83%AB%E3%82%B3%E5%A4%A7%E4%BD%BF%E9%A4%A8&FormRadioSelect=select_keyword&searchcategory=2&from=&to=&MN=default&inf=&sup=&page=1&idx=1&s_idx=1&kijid=A1001120230125M011-14-002&iref=pc_articletab_article&version=3194132139 (2023年10月6日にアクセス)

に NATO 加盟を果たした。

4. スウェーデンの NATO 加盟問題とハンガリーの東方開放政策

フィンランドの NATO 加盟後、加盟国の間ではスウェーデンの早期加盟を求める声が高まっていた。スウェーデンの加盟が実現しなければ、NATO は新たな防衛戦略へ向けた準備ができなかった。NATO 加盟の承認がスウェーデンに PKK 問題で譲歩を迫る以外にも、アメリカから F-16 戦闘機の購入など、自国に有利な状況をもたらすとトルコは捉えた。

スウェーデンにとって自国の NATO 加盟の承認を引き出すうえで、トルコとは異なり、ハンガリーとの間には取引の材料はなかった。オルバーン自身はエルドアンのようにスウェーデンに何か具体的な譲歩を求めているなかった。たとえば、スウェーデンがハンガリーに科せられた復興基金の凍結の解除を主張しても、EU 司法裁判所によって示された判断を覆すことは不可能である。あえてスウェーデンが譲歩できることがあるとすれば、次期のグリペン戦闘機のリースでハンガリーにより有利な条件を提示することくらいである。

ハンガリーはトルコの対スウェーデン姿勢に変化が生じるまで、EU による法の支配の適合性に関連したハンガリーに対する復興基金の凍結へのスウェーデンの支持に対する意趣返しとしての加盟承認手続きの遅延を続けるつもりだった。とくに、スウェーデンは2023年の上半期の EU 理事会の議長国であり、承認手続きの遅延が凍結解除への適度な揺さぶりだとオルバーン政権は捉えた。4月6日にハンガリーの首相府長官グヤーシュ (Gulyás Gergely) はロイター通信に「最近のスウェーデン・ハンガリー

(27) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. március 27, <https://www.magyarhirlap.hu/belfold/20230327-hozzajarult-a-parlament-finnorszag-nato-csatlakozasahoz> (2023年3月28日にアクセス)

関係は欧州委員会での（スウェーデンの内政）干渉のため低点にとどまり、信頼を高めるための措置が必要である」「そのような状況で、NATO の一体性は最も重要であり、もしわれわれが二国間での NATO 加盟の議論を持ち出しても役立つものではない」と語り、スウェーデンとの二国間の対話に否定的な姿勢を取った。⁽²⁸⁾

カタールで開催された経済フォーラムに出席したオルバーンは、5月23日にスウェーデンの NATO 加盟の前にハンガリーとの関係を改善する必要があると述べた。さらに、オルバーンは「ハンガリー・スウェーデンの政治的関係はひどく悪化している」「われわれは対立を NATO に持ち込みたくはない」と語った。⁽²⁹⁾にもかかわらず、オルバーンは EU 内部での対立を、NATO 拡大の問題とリンクさせたのである。

5月31日の欧州議会では、ハンガリー国内での LGBT への対応、法の支配に関して、激しい批判が起こっていた。スウェーデンから選出された左派の欧州議会議員ビョルク（Malin Björk）は、法の支配の観点から2024年下半期のハンガリーの EU 理事会議長国に反対した。⁽³⁰⁾

7月11日、12日にリトアニアの首都ビリニュスで開催される NATO 首脳会談に先立ち、トルコとハンガリーが事前にスウェーデンの加盟を承認

(28) ‘Swedish-Hungary Ties at Low Point, Orban Aide Says, amid Stockholm NATO Bid,’ *Reuters*, April 6, 2023, <https://www.reuters.com/world/europe/hungary-sweden-relations-are-low-point-orban-aide-says-2023-04-06/>（2023年6月13日にアクセス）

(29) ‘Hungary’s Orban: Better Relations with Sweden Needed before NATO Membership,’ *Reuters*, May 23, 2023, <https://jp.reuters.com/article/nato-nordics-hungary-sweden-idAFKBN2XE007>（2023年5月24日にアクセス）

(30) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. május 31, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20230531-hidveghi-balazs-a-magyar-baloldali-ep-kepviselek-azon-munkalkodnak-hogy-magyarorszagot-elszigeteljek>（2023年6月1日にアクセス）

するかどうかが目された。トルコにとって加盟承認の条件は、スウェーデンが憲法を改正してまで成立させた6月1日に発効した反テロ法が適応されているか否かであった。ハンガリーの対応はトルコの動向次第だった。反テロ法の施行後も、ストックホルムでは6月28日にもコーランを焼く抗議行動が展開された。⁽³¹⁾ 28日の抗議行動の後、ハンガリー国会では、スウェーデンの加盟承認に関する審議が行われなかった。

NATO 首脳会談直前の7月10日、エルドアンとクリステションがビリニュスで協議した。協議の後に NATO 事務総長ストルテンベルグ (Jens Stoltenberg) が、トルコがスウェーデンの NATO 加盟に同意したと発表した。⁽³²⁾ ストルテンベルグの発表にもかかわらず、トルコ議会はまだ加盟を承認しておらず、首脳会談でのスウェーデンの加盟は実現しなかった。しかし、エルドアンが加盟を容認したことは、スウェーデンの安全保障のみならず、NATO にとっても安全保障戦略上、大きな前進であった。

トルコがスウェーデンの加盟容認に転じると、ハンガリーの姿勢にも変化が生じた。来日中のシーヤールトーが7月26日に『日本経済新聞』との

(31) 2023年6月30日付『朝日新聞』（電子版），https://digital.asahi.com/article_search/detail.html?keyword=%E3%82%B9%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%87%E3%83%B3+%E3%83%88%E3%83%AB%E3%82%B3%E5%A4%A7%E4%BD%BF%E9%A4%A8&FormRadioSelect=select_keyword&searchcategory=2&from=&to=&MN=default&inf=&sup=&page=1&idx=1&s_idx=1&kijid=A1001120230630M005-13-003&iref=pc_articletab_article&version=3194132139（2023年10月6日にアクセス）

(32) 2023年7月11日付『日本経済新聞』（電子版），<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGR1408U0U3A610C2000000/>（2023年7月11日にアクセス）

(33) 2023年7月27日付『日本経済新聞』（電子版），<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB26DOP0W3A720C2000000/>（2023年9月11日にアクセス）

インタビューで、10月までにスウェーデンの加盟のための批准手続きを終えるとの考えを示した。⁽³³⁾

ここで、スウェーデンの NATO 加盟の承認手続きを遅らせてきたハンガリーとトルコの関係に目を転じてみる。ハンガリーはトルコの北欧二カ国への姿勢に合わせて、国会での批准を遅らせてきた。ホーヴァリ (Hóvari János) は、2013年2月の当時の首相エルドアンのハンガリー訪問が、二国間関係史の時代の転換だったと指摘した。⁽³⁴⁾ 両国は同年9月に新たな友好・協力条約を締結した。

2014年7月にオルバーンはルーマニアのトランシルヴァニア地方で毎年開催される夏期自由大学での演説で「西側のでも、自由主義的でも、たぶん自由民主主義的でもないにもかかわらず成功している国家がどのような体制なのかを世界は理解しようとしている⁽³⁵⁾」と語った。オルバーンは成功した国家の例としてシンガポール、中国、インド、ロシア、トルコを挙げた。オルバーンの演説は EU 内部では民主主義への挑戦と警戒感をもって受けとめられたが、東方開放へ向けた宣言であった。さらに、オルバーンは2015年にハンガリー外交にとって最も重要な三カ国に言及して、「ベルリン-モスクワ-アンカラの三角形⁽³⁶⁾」と述べていた。実際、トルコは「テュルク諸国機構」を通して旧ソ連、中央アジア地域で存在感を高めつ

(34) Hóvari János, “Folyamatosság, törések és változások a magyar-török kapcsolatok százéves történetében. 2013: egy korszakváltás kezdete,” *Külgügyi Szemle*, 22, 2, 2023, 16-17. o.

(35) オルバーン演説 (英語) は、ハンガリー政府の公式 HP, <http://www.kormany.hu/en/the-prime-minister/the-prime-minister-s-speeches/prime-minister-viktor-orban-s-speech-at-the-25th-balvanyos-summer-free-university-and-student-camp> を参照。

(36) Pesti Sándor, *Magyarország külpolitikája 2010-2020* (Budapest: Gondolat Kiadó, 2021), 134. o.

⁽³⁷⁾ つある。ハンガリーは同機構にオブザーバーとして参加している。

ハンガリー政府はスウェーデンの NATO 加盟問題と同じように、2019 年にエルドアンへのパートナーシップの政治的なゼスチュアとして、トルコによる内戦の続くシリア国境での「安全地帯」設置の作戦を支持して⁽³⁸⁾いた。トルコが意図した安全地帯は、トランプ (Donald Trump) 政権下のアメリカを含めて NATO 加盟国から支持されなかった。

ハンガリーの東方開放の通商戦略において、トルコやトルコ系の中央アジア諸国は重要な地域である。さらに、ハンガリーにとって、ウクライナでの戦闘が長期化している現在、ロシアからトルコを經由しての天然ガスのパイプライン、トルコ・ストリームの重要性が増している。また、ハンガリーはエネルギー確保の観点からアゼルバイジャンへのはたらきかけを強めており、パイプラインの中継地点としてトルコを重要視するのは明白である。エルドアンが2023年8月20日にブダペストを訪問し、オルバーン、シーヤールトーと会談した。エルドアンが12月18日に再度、ブダペストを訪問して、両国が戦略的パートナーシップ協定・相互援助協定に調印するとシーヤールトーは述べた。また、会談では、トルコ・ストリーム、ハンガリー・アゼルバイジャンの天然ガス輸送協定の発効、トゥルクメニスタンのヨーロッパ向け天然ガス輸出でのトルコの役割について意見交換がなされた。さらに、シーヤールトーはスウェーデンの NATO 加盟承認について、両国とも秋になってからであると述べた。⁽³⁹⁾

(37) 2021年11月16日付『日本経済新聞』（電子版），<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB158IE0V11C21A1000000/>（2023年10月6日にアクセス）

(38) Zsuzsanna Szélenyi, *Tainted Democracy: Viktor Orbán and the Subversion of Hungary* (London: Hurst & Company, 2022), p. 329.

(39) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. augusztus 20, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20230820-erdogan-megerkezett-budapestre>（2023年8月29日にア

しかしながら、トルコは9月になってスウェーデンの加盟承認を遅らせる姿勢に転じた。エルドアンは9月9日、10日にインドのニューデリーで開催された主要二十カ国・地域首脳会談（G20）の記者会見で、アメリカのバイデン（Joe Biden）政権が40機のF-16とトルコ軍近代化のための部品の取得には議会承認が必要だとの立場を示したと述べた。⁽⁴⁰⁾本来、トルコがスウェーデンのNATO加盟の承認をアメリカからのF-16購入のカードとしていた。にもかかわらず、バイデンがトルコへのF-16輸出をスウェーデンの加盟承認とリンクさせたと、エルドアンは不満を示したのである。

ハンガリーでも、スウェーデンへの批判が強まった。スウェーデンのラジオの教育番組がハンガリーの民主主義の逆行について批判したことを、グヤーシュ、フィデス議員団長コチシュ（Kocsis Maté）が問題視した。⁽⁴¹⁾これまでハンガリーはトルコに歩調を合わせて批准手続きを遅らせながらも、スウェーデンへの批判を抑制してきた。ハンガリーはついにスウェーデンのNATO加盟に反対の姿勢に転じた。

9月25日にオルバーンは秋期ハンガリー国会の開会に際しての演説で、スウェーデンのNATO加盟について「スカンジナビア国家の安全保障を脅かすものではなく、批准を急ぐ時でない⁽⁴²⁾」と述べた。オルバーンの演説

クセス)

(40) ‘Turkey ‘Seriously Upset’ over Washington Linking F-16 Sales to Sweden’s NATO Membership,’ *Al-Monitor*, September 10, 2023, <https://www.al-monitor.com/originals/2023/09/turkey-seriously-upset-over-washington-linking-f-16-sales-swedens-nato-membership>（2023年10月18日にアクセス）

(41) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. szeptember 19, <https://www.magyarhirlap.hu/belfold/20230919-levetitik-a-fidesz-frakcioulesen-a-magyarorszagot-pocskondiazosved-oktatofilmet>（2023年9月20日にアクセス）

(42) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. szeptember 25, <https://www.magyarhirlap.hu/belfold/20230925-orban-viktor-a-nemzeti-kormany-kiemelkedo-vallalasa>

は、秋の国会でもハンガリー政府がスウェーデンの加盟承認の審議を行わない意思表示であった。

2023年10月23日にエルドアンがついにスウェーデンのNATO加盟に関する条約原案に署名して、議会に提出した⁽⁴³⁾。現時点でどのくらい時間を要するのかわからないが、今後、条約案はトルコ議会での審議を経て批准されるだろう。

10月25日にグヤーシュは「過去10年のハンガリーへの批判を間違いだと認め、何故、われわれがそのことを最後まで問うているのかに、スウェーデンは答える必要がある」「もしわれわれがスウェーデンと正常で良好な関係になることを望めば、そうなるように努める。そうなれば、加盟を妨げるものはなくなる⁽⁴⁴⁾」と述べた。グヤーシュの発言からは、ハンガリーのスウェーデンへの不信感の根強さがうかがえる。だが、同時にグヤーシュの発言からは、必要以上にスウェーデンの加盟を遅らせる意図も感じられない。ハンガリーもトルコに同調して、国会で批准手続きを行う

fenntartani-az-energiabiztonsagot (2023年9月26日にアクセス); 'Prime Minister Orbán Says Hungary is in No Rush to Ratify Sweden's NATO Membership,' *AP*, September 26, 2023, <https://apnews.com/article/hungary-orban-delay-sweden-nato-bid-f0529443019c3f8161947d30acc59b68> (2023年9月27日にアクセス)

(43) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. október 23, <https://www.magyarhirlap.hu/kulfold/20231023-erdogan-alairta-svedorszag-nato-csatlakozasat> (2023年10月24日にアクセス) 'Turkey's Erdogan Submits Sweden's NATO Bid to Parliament for Ratification, Presidency Says,' *Reuters*, October 24, 2023, <https://www.reuters.com/world/turkeys-erdogan-submits-swedens-nato-bid-parliament-ratification-presidency-2023-10-23/> (2023年10月24日にアクセス)

(44) *Magyar Hírlap. hu*, 2023. október 26, <https://www.magyarhirlap.hu/belfold/20231025-gulyas-gergely-a-leghatarozottabb-an-eliteljuk-az-izrael-elleni-tamadast> (2023年10月26日にアクセス)

だろう。

5. おわりに

ハンガリーはフィンランド、スウェーデンの NATO 加盟に対して意図的に批准を遅らせてきた。本稿の脱稿の10月末時点で、ハンガリー国会はまだスウェーデンの加盟を承認していない。これまでハンガリーはフィンランド、スウェーデンとの良好な関係を維持してきた。ハンガリーは二カ国の加盟の承認手続きを遅らせることで、EU の新型コロナウイルスからの復興基金の凍結解除への糸口を模索した。にもかかわらず、北欧二カ国の NATO 加盟への遅延行為は、基金の凍結解除に寄与しなかった。

ロシアは NATO の北欧への拡大に反対してきた。プーチンは2023年10月18日に「一帯一路」の国際フォーラムで北京を訪問した際、オルバーンとの会談後に今日の国際環境でもハンガリーとのパートナーシップを維持、強化できたと述べた⁽⁴⁵⁾。実際に、ハンガリーは一貫して EU による対ロシア経済制裁に批判的である。だが、ハンガリーが NATO 拡大を遅らせたことの大きな要因が、エネルギー依存度の高いロシアとの関係への配慮であったとはいえない。ハンガリーにとって、北欧二カ国の NATO 加盟は最後まで反対すべき重要な問題とはいえない。ハンガリーには最後までスウェーデンの加盟を阻止する意図もなければ、阻止すること自体が不可能である。オルバーン政権は自国経済に大打撃を与えかねない EU の対ロシア制裁にすら一度しか反対していない。むしろ、ハンガリーは今後のトルコとの関係を重視している。ハンガリーは同じフィン・ウゴル語系の言語のよしみから、フィンランドを伝統的な友好国とみなしてきた。だが、

(45) *Magyar Nemzet. hu*, 2023. október 18, <https://magyarnemzet.hu/kulfold/2023/10/vlagyimir-putyin-orban-viktor-magyarparti-politikus> (2023年10月19日にアクセス)

近年、ハンガリーはトルコや中央アジアなどテュルク系諸国との関係強化に努めている。オルバーンがトルコとの関係強化を意識して NATO 拡大を遅らせたことは、彼自身の二期目の政権以降に展開されてきた東方開放政策の一環であった。

オルバーン政権は2024年に欧州議会選挙をひかえ、国内向けにエネルギー安全保障を強く打ち出している。ロシア・ウクライナ戦争の勃発後、ハンガリーはロシア寄りの姿勢を取り EU 内部および V4 での立場を悪化させた反面、トルコから西バルカンへと続く地域協力を模索しつつある。しかし、2023年10月にガザ地区で起こったイスラエルとイスラム武装組織ハマスとの戦闘の状況次第では、ハンガリーとトルコとの関係強化が進展しない可能性もある。

Hungarian Foreign Policy and Finland's and Sweden's NATO Membership

論

Akira OGINO

説

The aim of this paper is to examine the characteristics of Hungarian foreign policy under the Orbán government. Especially the author focuses on how Hungary coped with problems of Finnish and Swedish accession to the North Atlantic Treaty Organization (NATO). Finland and Sweden expressed their will to join NATO, when the Russian-Ukraine War broke out in February 2022. Two states maintained non-aligned policy. Most of NATO member states supported the enlargement northward. However, Turkey was opposed to Finland's and Sweden's membership, because they accepted refugees of the Kurdish Workers' Party (PKK) in their territory. Recep Tayyip Erdoğan, the Turkish President, regards PKK as terrorist group. In addition to Turkey, Hungary also delayed ratifying the NATO membership of two Scandinavian states with the intention of releasing the frozen Reconstruction Fund from COVID-19 within the European Union. When the European Parliament made a political issue of 'rule of law' in Hungary, Finland and Sweden approved of freezing fund to Hungary. At the same time, Viktor Orbán, the Hungarian Prime Minister, regards Turkey as strategic partner of Hungary's East-Opening Policy (keleti-nyitás politikája). As a result, the Hungarian government kept step with Turkey and didn't start to discuss Sweden's NATO membership in the National Assembly after Finland joined in April 2023.